

久田 絢子 教授 年 譜



久田絢子先生は、名古屋市立大学人文社会学部教授、大学院人間文化研究科教授として多年にわたって活躍され、本学の研究・教育・社会活動に多大の貢献をされました。教授は2004年3月末日をもって退職されます。その功績に感謝をささげ、年譜を掲げます。

1940(昭和15)年3月7日 愛知県に生まれる

〔学歴〕

1962(昭和37)年3月 津田塾大学学芸学部英文学科卒業
 1963(昭和38)年3月 津田塾大学学芸学部英文学科研究生終了
 1967(昭和42)年3月 津田塾大学大学院文学研究科修士課程(英文学専攻)修了

〔職歴〕

1964(昭和39)年4月 明治学院東村山高校非常勤講師(英語担当)
 1965(昭和40)年4月 明治学院東村山高校教諭(英語担当)
 1967(昭和42)年4月 愛知県立大学文学部英文科助手
 1969(昭和44)年5月 名古屋市立女子短期大学講師
 1972(昭和47)年5月 名古屋市立女子短期大学助教授
 1980(昭和55)年4月 名古屋市立女子短期大学教授
 1996(平成8)年4月 名古屋市立大学人文社会学部教授
 2003(平成15)年4月 名古屋市立大学人間文化研究科教授

〔主要著書・論文〕

I. 著書

『女性問題・海外レポート イギリスの女性—未来へ向けて—』名古屋市市民局、1992(平成4)年3月。

『女性の解放・社会の解放』ユニテ、1993(平成5)年9月、共著。

『現代社会とジェンダー』ユニテ、1995(平成7)年6月、共著。

II. 学術論文

「The “Still Point” of John Keats」『愛知県立大学文学部論集』第18号、1967(昭和42)年12月。

「不協和音の劇的効果—Shylockのことば—」『愛知県立大学文学部論集』第19号、1968(昭和43)年12月。

「As You Like It についての一考察」『名古屋市立女子短期大学研究紀要』第27集、1978(昭和53)年3月。

「A. J. Munby—女性の生活と文化を記録したジェントルマン—」『名古屋市立女子短期大学研究紀要』第42集、1989(平成元)年3月。

「言葉を盗まれた女たち」『Fifty: Fifty』Vol.3., スペースT. M. K、1990(平成2)年7月。

「Narrative Strategies」とフェミニズム—現代イギリス女性作家論—」『名古屋市立女子短期大学研究紀要』第52集、1994(平成6)年3月。

「娘と母の物語—Night at the Circus についての一考察—」『名古屋市立女子短期大学研究紀要』第54集、1995(平成7)年3月。

「NamingとRe-naming—ジェンダーと言葉につ

いての一考察一」名古屋市立女子短期大学生活文化研究センター編『生活文化研究』第6集、1995(平成7)年3月。

「フェミニスト誌とフェミニズム運動が共有したものの—イギリスの女性たち」『Fifty: Fifty』Vol.28、Click、1995(平成7)年6月。

「母と娘一分断から連帯へー」『イーヴネット』Vol.15、1996(平成8)年12月。

「イギリスにおける『ケア』思想の転換」『Fifty: Fifty』Vol.35、1997(平成9)年9月。

・「『ブレアズ・ベイブズ』にみるバックラッシュ—イギリスのフェミニズムのいま—」『Fifty: Fifty』Vol.41、2000(平成12)年3月。

III. その他

(翻訳)

Michael Hiley『誰がズボンをはくべきか—ヴィクトリア朝の働く女たち—』ユニテ、1986(昭和61)年12月、共訳。

(文献目録)

『『家族』思想文献目録』名古屋市立女子短期大学生活文化センター編『生活文化研究』第1集、1990(平成2)年3月、共著。

[大学における活動]

- ・名古屋市立女子短期大学において、一般総合 I (女性論) の運営委員として一般総合 I の講義担当および運営に従事。
1990(平成2)年『名古屋市立女子短期大学 女性の自立と現代の生活・一般総合 I (女性論) 10年の記録』を運営委員長としてまとめる。
- ・名古屋市立女子短期大学において、女性問題資料室運営委員として、女性問題関連の図書、文献資料を選定し、蔵書の目録・解題『名古屋市立女子短期大学女性問題資料室所蔵・女性問題関係図書文献解題目録』(全四冊、1987、1988、1991、1994) の作成に従事。
なお、女性問題資料室は名古屋市立女子短期大学閉学にともない、名古屋市立大学総合情報センター山の畑分館に移管された。
- ・1989(平成元)年に開設された、名古屋市立女子短期大学生活文化研究センターの女性論研究プロジェクトに参加し、公開セミナーを閉学までの7年間実施。
- ・1993(平成5)年、名古屋市立女子短期大学生活文化研究センターが「全国生涯学習フェスティバル」に協賛して開催した公開国際シンポジウムとフォーラムに実行委員として従事。
- ・1989(平成元)年と1994(平成6)年に開催された、中国江蘇省社会科学院における日中シンポジウムに参加し、中国人研究者と討議および研究報

告をした。

- ・名古屋市立女子短期大学において、図書委員、入試委員、予算委員、教務学生委員、研究紀要編集委員等を務める。
- ・名古屋市立大学において、図書館運営委員、公開講座企画委員、海外派遣者・国内研究員選考委員、入試検討委員、山の畑分館図書委員、学生生活委員、セクシャルハラスメント対策委員等を務める。